

がん予防キャンペーン大阪 2004 シンポジウム討論概要

シンポジスト3名、司会2名の5名の先生方で、約40分間の討論会が行なわれた。

はじめに、シンポジスト同士の意見交換を行なった。

肥満も問題だが、痩せすぎや喫煙などは、テレビなどメディアから受ける影響が大きいこと、人気女優が小太りだったり、人気俳優が、タバコを吸う女性は嫌うなどのイメージ的な作業でも、ずいぶん変わると思うとの意見があった。

また、飲酒に関しては、「がん」のリスクから考えると、飲まないほうが良いことが説明された。しかし、循環器疾患予防には、適度な飲酒が良いとされているので、全体の寿命から考えて、1日1~2合程が良いだろうと検討された。

次に指定発言を3件いただいた。保健所の活動報告や栄養指導の場でよく受ける質問、脂質についての質問であった。

その中で、医療職の人が、氾濫する情報を正しく、分かりやすく伝える「情報ナビゲーター」の役割を担う必要が出てきたのではとの意見がシンポジストよりあった。一方、大阪では、情報の入手先として1位はマスコミ、2位は近所の人であることから、情報ナビゲーターは食生活改善連絡協議会のような方々がなれたらとの思いがあること、そのための情報提供などを行なっていることもシンポジストより報告された。

さらに、会場からの質問をいただいた。時間の都合で、数名の中から2名の質問をいただいた。

1人目の質問は、「乳がんの治療で抗がん剤とサプリメントを処方される先生がいらっしゃるが、再発予防効果があるのか」という治療に関する質問だった。

シンポジストから、サプリメントをあえて摂取する必要がないというのは、病気でない状態の人のことであることが強調された。また、有効だという研究の一致はなくとも、主治医の治療方針によっては、サプリメントを処方する場合もあること、それは個々の患者さんの状態、患者と主治医とのコミュニケーション状態、患者さんが望むことなどによって変わるので、明確にはお答えし辛いということの理解を求める場面もあった。

2人目の質問は、「テレビのコマーシャルなどではどんどん情報が流され、大衆には判断しにくい。医師会などから、慎重しく宣伝するように言ってもらいたいと思うが、いかがか」という情報への対応についての質問だった。

シンポジストから、新聞広告にある、商品の広告と、商品を宣伝するための書籍の広告の違いを例に、情報の見分け方についてわかりやすい解説があった。規制に関しては、言論の自由があるので難しい面もあるし、すべて規制してもらった方が良いかどうかはわからないこと、一人一人の方が自衛をするためにも、情報を吟味する心がけや勉強をする必要があるのではないかとアドバイスがあった。

最後に、がん予防と食生活の関係についてつかんだイメージを持ち帰り、皆様の周りで、がん予防に取り組む輪を広げていただきたいということをもとめとし、閉会した。